

携帯端末を用いたユビキタス／グリッド環境の協調的モニタリングシステム

開発者：釘井 睦和、谷口 義樹

ユーザも積極的に協力・参加してグリッドを運用管理する『**環視システム**』

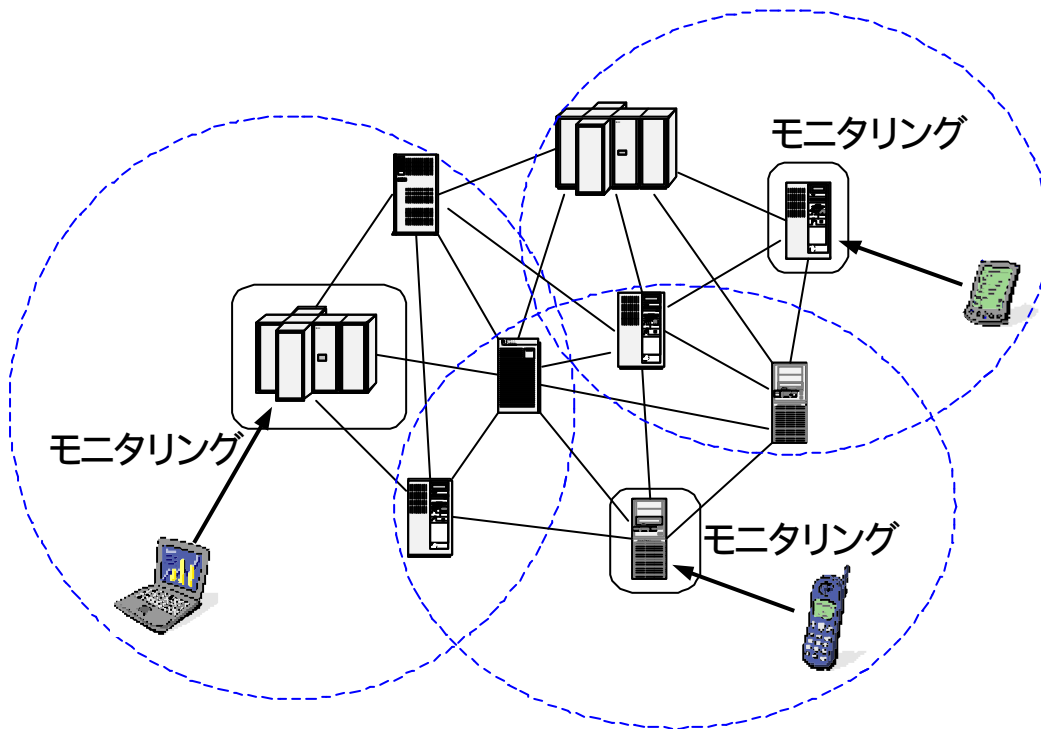


図 1 環視の概念

～ **監視**から**環視**へ ～

- 従来の『**監視**』はサーバ管理者の負担が大きい
- 管理者の監視に加えて、多くのユーザも協力・参加した『**環視**』により、大規模なグリッド環境も円滑に運用管理
- 携帯端末の利用によりいつでもどこでもモニタリング可能

表 1 主要な収集データ

静的情報	動的情報
・ホスト名 ・IPアドレス ・OSの種類 ・OSのバージョン ・CPUの種類 ・CPU数 ・CPUクロック数 ・スワップ領域 ・総メモリ量 ・総ハードディスク容量 ・総スワップ領域容量 ・管理者メールアドレス	・ロードアベレージ ・メモリ使用量 ・メモリバッファ ・メモリキャッシュ ・使用スワップ領域 ・ハードディスク使用量 ・トッププロセス ・トッププロセスユーザ ・時刻

- ・ 動的な階層構造を構成する P2P フレームワークである

DNAS (Distributed Network Application System) と

ユーザ端末上で動作する環視ソフトウェアにより構成

- ・ 環視ソフトウェアは、**PC** 版、**PDA** 版に加えて**携帯端末**

(NTT ドコモ社の i モード) に対応

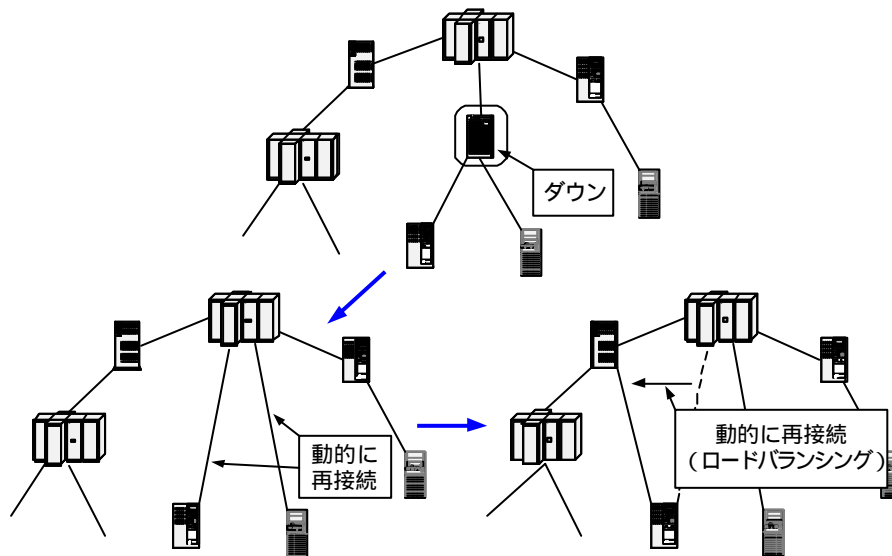


図 2 DNAS の特長 (動的に再構成可能な論理的ツリー構造)

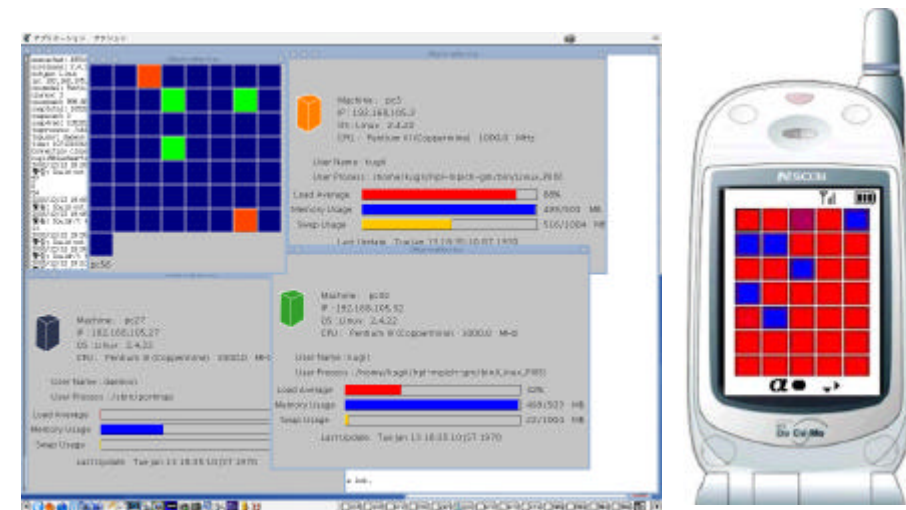


図 3 環視ソフトウェアの表示例